

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2895000111		
法人名	医療法人社団六心会		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	兵庫県神戸市北区道場町日下部1853番地		
自己評価作成日	平成28年11月16日	評価結果市町村受理日	平成 28年 12月26 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2		
訪問調査日	平成28年12月1日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>1.こころカフェを継続して開いていき、地域での馴染の関係性が深まり、認知症の方の生活への理解が深まる。</p> <p>2.レクリエーションや行事など2・3階合同で行い、利用者様同士の交流の機会をもち一緒に暮らす仲間意識が高まる。</p> <p>3.合同レクリエーションや合同の行事をする中で、職員同士のコミュニケーションを深め、お互いの利点を学び自己研さんの機会にする。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所は住宅街にあるがまだまだ田園が残り自然を味わえる。入居者は近隣の方だけでなく、近郊からの紹介も多い。月1回の「こころカフェ」は地域住民との交流の場として定着し、開設以来の2名のボランティアは馴染みとなり、習字や紙芝居を通じて楽しみひと時を作っている。運営推進会議の意見は活発であり、議事録はヒヤリハットも隠さず細かく記述し、それを受け行った会議の内容や関連事項にも及んできめ細やかな反省や指導がなされている。管理者の人柄が職員の団結を促し和気あいあいとした雰囲気がある。職員は常に利用者へ寄り添いどうすればより良くなるかを考えており、終末期を当該事業所で迎えたいとの家族や本人の希望には、同法人の訪問看護ステーションの協力で、職員全員が看取りに取り組んでいる。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

認知症対応型共同生活介護こころ

外部評価機関:CS神戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の名札の裏に基本理念と職員行動指針が印刷されており常に意識するように指導している。全体会議やケースカンファレンス時理念に基づき業務する事を確認し、新入職時には説明している。	法人の理念と行動指針である六心の訓(おしえ)を名札の裏に記し、全体会議や事例検討会で唱和する。また事故対策委員会もこれを基礎として毎月標語を創りフロアで共有するなど職員への意識付けをしている。10月は「やさしい思いやりのある声掛け」であった。	標語を事業所としてさらに徹底、共有するために日々のサービス提供の場であるフロアに掲示するのは如何でしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	こころカフェや秋祭り等の施設行事時は地域の方に案内を出しお越しいただいている。地域の文化祭には作品を出しふれあい祭り等にも参加している。看護実習生や中学生のトライやるウィークの受け入れも行っている。	月1回土曜日の午後に玄関ピロティで開く「こころカフェ」は、地域住民との交流の場となっている。ふれあい秋祭りには入居者を一日に3回時間帯をずらして会場へ送迎し、楽しく過ごした。地域の文化祭の作品展にはねん土細工、貼り絵、習字などを出品した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターのステッカーは引き続き玄関に貼っている。施設見学に来られたら生活の様子や施設を見て頂きご家族の日々の思いや悩み等お聞きし、対応や情報等お知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を開催し、会議の中で出たご意見等全体会議で職員に伝えたり等して業務に取り入れている。	家族、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、知見者等の参加に加え、複数の入居者の参加もあり意見を聴く機会もある。クラブ活動、ヒヤリハットの報告等、入居者の日常生活が手に取るように判る。参加者間の意見交換も活発である。	運営推進会議の記録は詳細に記述されています。閲覧用の掲示にとどまらず、入居者全員の家族に記録をお届けし、事業所のありのままの姿をより多く知ってもらうように努めてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会や施設部会に参加したり、運営推進会議に市町村担当者に参加して頂き、情報を交換し、良い情報など参考になっている。	運営推進会議には地域包括支援センターから、こころカフェには市の担当者が参加している。ヒヤリハットについての記録・考え方、気づきのメモ、ボランティアの募集等参考になる提案・意見などを出してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内では計画的に身体拘束の研修を行っている行動制限や身体拘束に該当する行為等についてはカンファレンスしその中の気付きを促している。エレベーターは安全の為テンキー操作にしているが利用者の様子を観察してその都度職員が付き添い拘束がないように努めている。	2, 3階から1階へのエレベーターの利用は家族の同意を得てテンキーを使用している。利用者にエレベーターを使いたい素振りがみられた場合は、職員がそっと寄り添って、静かにその行動のいきさつを考え、本人が納得するように時には同伴で外出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加している。日々のカンファレンスや全体会議で事例検討を行い不適切ケアがないように、意見の言える関係作りの中でのカンファレンスを行い、職員が同じ方向でケアができるよう心掛けている。	8月に、兵庫県シルバー協会主催の「高齢者・障がい者に対する虐待防止セミナー」に参加した。その内容は12月に伝達研修を行う予定である。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外の研修に参加し、全体会議で研修内容について 内部研修している。ケアプラン委員会などで情報を収集し、個々の必要性等を共有し、相談に応じられるようにしている。	成年後見人制度を利用している方は1名である。11月に管理者は社外研修、「成年後見人制度について」に参加したので職員に伝達研修を行う予定である。ご家族からの質問に対しては専門家を紹介したり、必要な対応ができるようにしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳しく説明を行い不安なことやわからない事等聞き取り丁寧に説明している。改定時や追加事項がある場合は説明文書をお渡しし理解納得いただいた上で同意書をいただいている。	丁寧な説明を心掛け安心、安全、さらに居心地の良い住処を提供することを理解してもらう。10月に近隣病院の療養型病床から当事業所に移った方には管理者自らが説明した。看取りについては家族がどう考えているかにより、契約時に説明をすることもある。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお電話をした際等必ず何かご意見ご要望等ないかお聞きし忌憚なく話せるように心掛け、いただいたご意見について、フロアにて確認しカンファレンスを持ち職員に周知する様にしてしている。	利用者や家族の発言は運営推進会議の場面でも反映している。家族の来訪や電話連絡時には、特に、介護計画の変更理由や体調管理等を説明している。入居者を「チャン」付けしたことを家族から「不快」との声があり、全体会議で尊厳について改めて話しあった。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員会や各委員会、またフロア会議や全体会議等で出た意見は、取り入れ、より良い業務となるように反映させている。	業務改善、給食、感染予防、事故防止、レク、ケアプラン等の六つの委員会全てに管理者が参加しているので、良い提案は即座に決定、全体会議でそれを浸透させている。管理者と病院の看護部や地域連携室等とは親密な関係にあり意見を反映しやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課を行って、個人面談をしている。日常的に職員個々の話しに耳を傾け一人一人の個性を大切に、意見を反映できるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は全員対象で行っている。施設外研修は必要性の高い職員に参加してもらっている。また研修報告を兼ねて施設内で報告する機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設部会や北神ケアネットワーク会議、グループホーム連絡会等に参加し意見交換等を行い参考になる事があれば持ち帰って業務に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居まで事前訪問したり、施設見学をして頂いたりしている中で、ご本人様の表情や言動等より不安なお気持ち等配慮しながら安心できるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の電話や施設見学等から、ご家族様のお話を傾聴し現状や要望を把握し安心して頂けるよう信頼関係が築けるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の意向を踏まえアセスメントを行い、今何が一番必要かを見極め、他のサービスの利用も含め検討し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれのできることを活かして活躍できる場を提供し出来ないことを手伝ったり、ご利用者様同士の交流等がスムーズに出来るように職員は見守り声掛け等支援する様に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日々の様子をお伝えし、ご本人と家族の絆を大切にしながら、ともに支えて行く関係を続けるように関係を保ちながら支援している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいた方との外出や、散歩中に近隣の方に声掛けて頂いたり等関係が途切れないように努めている。	地域の入居者の外出時には馴染みの住民が話しかけてくれ楽しみになっている。楽器や声楽等、家族みんな(息子やお孫さんも)で演奏してくれる訪問は、本人ばかりかフロアの入居者とも馴染みとなっている。クリスマス時の来訪を楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の利用者様の生活歴や特質などをよく理解し、利用者同士のトラブルを回避し、同じフロアの一員として仲間作りができるように、職員同士情報を共有しながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ地域で生活する関係の中で、行事の声掛けを行ったり、電話での相談を受けたりし、途切れることなく支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人違う生活歴の延長上に、この施設の中で出来る範囲でご本人らしく生活できるように支援しているが、ご家族のご意見を聞き、力を借りながら支援している。	訪問家族と利用者の会話から利用者の思いを把握したり、落ち着きのない利用者に声をかけて散歩に出たりしている。職員の気付きをメモで共有しカンファレンスを行って利用者の思いや意向の把握に努めている。	気付きメモの数が最近少なくなっているようです。職員の緊張感を高め多くの気付きメモが集まる工夫を期待しています。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面接調査表によりご本人の生活史を把握するよう努めている。またご本人様・ご家族様より話しを伺い経過等も把握する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々ケアプランを実行する中で一人一人の心身の状態の変化等あれば日勤リーダーに伝え、夜勤者に申し送り職員間で情報を共有しているが、フロアでのカンファレンスや月1回の全体会議等で問題点等カンファレンスし、プランに活かしていく様に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	機会あるごとにご本人様の様子はご家族に伝えてご意見ご要望等を聞いている。体調については訪看に伝え必要なときは 主治医の指示を聞いている。それらを活かしてフロア会議等でカンファレンスを開き、モニタリングを行い、プランの見直しに繋いでいる。	入居前に家族、本人、関係者らと面談し、生活、居室の様子、こだわり等の聞き取りを行う。介護計画書を作成し、居室担当者を決める。担当者は家族との窓口になり最初はきめ細かく、後は月に1度カンファレンス、モニタリングを行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき日々実践している記録を残しているがその中で、いつもと違う様子などについてカンファレンスを開き職員間で情報を共有し、ケアプランの見直しに繋ぐよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化などがあり、生活の質が変化する等あり、施設での生活の仕方も変わることに対してのご家族の意見等お聞きし今後の暮らし方についての提案や相談等する様に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園児や地域の催事に参加する機会をもうけている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診と週1回の歯科往診を行っている。早期の受診が必要な時は対応している。又他科への受診等は適切な医療が受けられるように家族と相談しながら必要な時は職員対応で臨機応変に対応している。	協力病院にはない皮膚科や耳鼻科等の受診が必要な場合は家族と相談し、場合によっては職員同伴で車での通院を支援している。歯科受診も家族と相談し、週1回の往診を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時や急な状態変化時等の電話相談等気になる事があればいつでも相談できる体制が整っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成し管理者や計画作成担当者が主となり病院と連携をとっている。退院時にも病院担当者との担当者会議を開催し退院後の生活がスムーズにできるように対応している。	入院中には週に2～3度訪問し状態を把握している。退院後の再入居は、家族、病院の地域連携室や理学療法士らと十分に話し合い、受け入れ態勢を整えスムーズに入居できるようにしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重要事項説明書にもとづいて重度化した場合について説明確認している。入居後は状態の変化に応じて早い段階でご家族と話す機会を持ち、重度化した場合は主治医、訪問看護の同席のもと今後のことについて話す機会を持っている。	今年1名の利用者が嚥下困難となり状態が悪化した際は、何度も家族と話し合い看取りを事業所で行う事になった。1週間に1回のカンファレンスを行い家族、主治医、訪問看護、職員との連携を密にし毎日プランを変更し、混乱なく最期を迎える事ができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時の研修で急変時の対応について行っている。緊急時マニュアルや症状別の観察・対応についても各ユニットにマニュアルがあり日々学習する様に指導している。実際緊急性がある時の対応については全体会議で確認しているが個別で必要時に指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。施設内の設備の理解や消火器の使用方法等実際に行っている。地域の住民の方々に協力して頂けるよう自治会長及び民生委員の方には協力を依頼している。	年2回の消防訓練を行っている。今年は第1回の消火、避難、通報訓練を8月に行った。3階に火元を想定し利用者2人を階段で使用する2階の踊り場に避難誘導を行った。2回目を2月に行う予定にしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴の情報を職員間で共有し、尊重して対応する様に心掛け、指導しているが、なじみの関係の中で言葉かけのみだれがある時は個別で指導している。	一部職員による利用者への呼びかけが不適切な時があり、利用者が不快な思いをした事を家族を通じて分かった。全体会議で必ず姓で声かけをする事を確認、指導した。又、男性職員の女性の利用者に対する接し方も気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人お一人思いを表出できる様な声掛けや態度を心掛けているが、まだ足りない所もあり、日々のカンファレンスに持ちこみ、その中で気付いたりしていく様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様その日の様子を見ながら声掛けや促しをする様に心掛けている。気持ちの表出が上手に出来ない利用者様については表情や言葉等見て無理強いないように対応しているが、十分ではない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理美容についてはご本人の希望に合わせて利用していただいている。又更衣時にはご本人に聞きながら介助している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクやおやつレク時はできることで参加して頂き、自分達で作ったことの喜びを共有していただいている。買物等の外出時にご自分で選んでいただいたり、自分のお金で購入して頂いたりしている。	毎日職員も利用者と一緒に食卓を囲んでいる。普段の食事は業者を利用している。月に1回ずつの食事とおやつレクレーションは、利用者と一緒に買物や調理を楽しく行っている。男性利用者も買物や机拭き、味見などをするなど全員で楽しんでいる。	全員でおいしく作って食べると会話もはずみます。1年に1回でも2回でもこの機会が増える事を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表やA3ボードなどで一日の様子を記入しいつもと違う様子については申し送り状態の把握に努めている。月1回の体重測定を行い、食事形態も能力に合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援を必要に応じて行っているが拒否などある方で支援の必要な方へ不足などあり十分とは言えない。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態の変化で使用のおむつの変更等が必要な時はフロアでカンパレスを持ちなるべく無駄がないようこころがけている。排泄の自立を尊重し、ご本人の様子を見ながら声掛け、一部介助等の支援を行っている。	オムツ使用者のうち歩ける利用者は昼間はリハビリパンツで過ごし、職員が表情を見てトイレに誘導している。排便困難な利用者については訪問看護師と相談しながら薬を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記入し水分の促しや便の確認等を行い、必要な時は主治医の指示のもと緩下剤の服用をして頂き毎日気持ちよく生活できるように心掛けている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日については一応決めているが、その当日にご本人に確認しご希望をお聞きして、シャワーのみ、清拭等の対応を臨機応変に行っている。	全利用者が週に2回入浴できるように支援している。個浴で職員が見守りながら入浴している。機械浴の利用者も週に2回の入浴を実施している。拒否する利用者には毎日声かけをして月に1度以上は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活のリズムに合わせて、声掛け等行っている。照明や暖房などもご本人に確認して対応し、安心して眠れる環境を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更がある時は申し送りノートに記入し、職員に周知している。利用者様一人一人の服薬の内容について理解し、担当者は終わったら確実にサインを行なう。状態についてその後観察する様にしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の生活歴や趣味を把握し、好きなことや興味のあることを職員と一緒にやっているが自分の気持ちを表出できない利用者様の生活について関わりは不足している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の様子や希望に沿って園芸の観察や気分転換等行っている。四季を感じて頂けるようにタイミングを見計らって少しの間でも外出している。	庭に植えた野菜の水やりや収穫、草ひきや事業所の周りを散歩したりする他、お花見と紅葉狩りを何回かに分けて実施した。おやつを持参し、途中のスーパーで好きな飲み物を買ひ、飲食しながら季節を楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる方についてはご本人の意思でジュースを買ったり、外出の機会に声掛けしてご自分の判断で買物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの希望がある時はその都度職員が同行し電話していただいている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の味わえるように利用者様と作品を掲示したりしている。又ご希望によりテレビの音量を下げたり照明を落としたりしている。	広い明るいリビングに陽が差し込み暖かい日は暖房無しで過ごせている。毎日ちよとした生け花が飾られ心落ち着ける雰囲気になっている。浴室やトイレは広すぎず狭すぎず明るく清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファ等思い思いに使用していただいている。こだわりのある利用者様等の動きに合わせて声掛け等行い、関係性がぎくしゃくしない様な見守りを行っている。必要に応じて食席を替わっていただいている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の馴染みの物を配置して、安心できる空間作りを家族様と相談しながら配置している。その後も利用者様の希望を聞きながらまた様子を見ながら安全に過ごせるように声掛け対応をしている。	洗面台が備え付けられ洗顔や歯磨きを居室で行う利用者もいる。家で使用していたタンス、本、飾り物などを置き落ち着ける雰囲気になっている。床は掃除機を掛け清潔にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできることを把握して、必要な所にわかる様に貼り紙などしている。ご本人様の様子を見ながらカンファレンスを持ちながら対応している。		